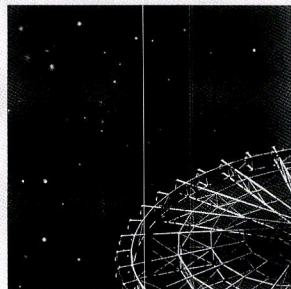




EQ / シュノーケル

SME Records 3059円 (税込) 発売中

1stアルバムから1年半ぶりとなる2ndアルバム。「奇跡」「天気予報」「Bye-Bye×Hello」「solar wind」のシングル4曲を収録…といっても全12曲、全てがシングル並のクオリティの名曲揃い。本文中にもあるように、何度聴いても新しい発見がある仕掛けが並びめられた一枚でもある。

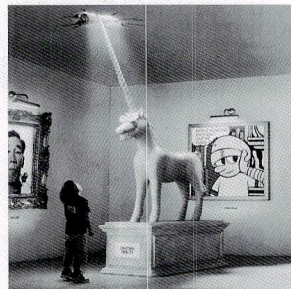


recommended 01

若者のすべて / フジファブリック

EMIミュージック・ジャパン 1000円 (税込)

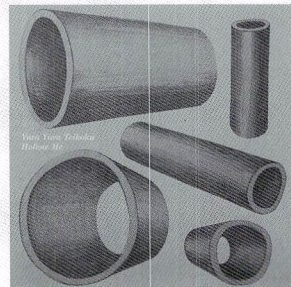
所属する事務所の尊敬する先輩でもあり、歌詞もメロディもレモンを搾られるように心から何かが滲みでてくる感覚なんです。で、僕らが後輩なのがいやだそうで、「オレたちがこの事務所の一番後輩でいたかったのに…」って言われます(笑)。<西村>



ユニコン・トリビュート / VARIOUS

SME Records 3200円 (税込)

僕らもこのアルバムに『おかしな2人』で参加させてもらってるんです。実はシュノーケルとしてコピーしたのはこの曲が初めてで、BPMも僕らの曲よりも早くて身体がおいしくなくて…メンバー全員で筋トレしてレコーディングに臨みました(笑)。<山田>



recommended 03

空洞です / ゆらゆら帝国

Sony Music Associated Records 2854円 (税込)

ゆらゆら帝国がずっと好きなんです。ガーレジ音りのサウンドでリフものが特に好きで、一時期の僕のベースはものすごく影響を受けてました。すごく個性的なベースの動き方をするので、そういう部分をどんどん吸収したいですね。<香葉村>

シュノーケル

西村晋弥 (Vo&Gu)、香葉村多望 (Ba)、山田雅人 (Dr) のスリーピースバンド。'04年1月に福岡で結成し、福岡を中心にライブ活動を開始。'05年11月に1stシングル「大きな水たまり」でメジャーデビュー。これまで、7枚のシングルと2枚のアルバムをリリース。独自の世界観で綴られる歌詞と珠玉のメロディは、「ロック」と一口には括れないセンスを感じさせてくれる。

【LIVE INFORMATION】

EQ TOUR

2008.2.2 (Sat) 京都 磔磔

OPEN 18:00 / START 18:30 3000円 / ドリンク別
(キョードーチケットセンター-06-6233-8888)



POWER PLAY SOUND
Music is moistened our life. Tasteful album is here.
We'd like to find your recommended one.

イメージを越えたインパクト、眼鏡っ子の逆襲がいま、始まる。

これまでROCK IN JAPAN FESTIVALなどの夏フェスや、全国ツアー、Base Ball Bear・チャットモンチーとのスプリットツアーを経て、着実に知名度を全国区に広げてきたシュノーケル。そんな彼らがメジャーデビューから2周年を迎え、変わったこととは？

「色んなとこに目を向けられるようになったかな。ライブに来てくれたお客さん一人ひとりの顔がちゃんと見れるようになったとか(笑)。デビュー当時はそんな余裕もなかったけれど、どんどん地に足が着いてきた気がします。あっ、あのお客さん今日で何回目だとか、あっ、今日はカバちゃん(香葉村)側で観るんだとか(笑)<西村>。

メンバー3人で意識をして呼吸を合わせようとしていたことが、意識しなくても自然に合わせられるようになり、ライブの運び方も上手くなってきたのだという。もちろん、音楽的に変わってきた部分もある。

「シュノーケルはメンバーそれぞれの音楽性がバラバラなんで、自分たちが楽しい音楽という狭い視点から、どどん聴いてもらう側の人のことも考えるようになって、『一回聴いて好きになってもらえる音ってどんな音だろう?』っていうことを意識できるようになりましたね<山田>。

そして、そんな音を詰め込んだ2ndアルバム『EQ』をこの秋にリリース。

「1stアルバム『SNOWKEL SNORKEL』より、楽曲の色が広がっていてヴィビッドというより深みが増した感じで。一曲に対する思い入れだったり、詰め込みたいものがハッキリした気がします。何度聴いても新しい発見のあるアルバムになったと思います<香葉村>。

そう、『EQ』は音楽を聴く+αで面白い発見があって楽しめるアルバムなのだ。例えば1stアルバムのラストナンバー「夏の恐竜」の歌詞にでてくる「あの歌聴ってみる」の「あの歌」が、2ndアルバムのラストナンバー「ポクラとカメラ」だったり。じっくり聴いていると意外な繋がりを発見できたりする。

「そういう仕掛けが大好きで、どれだけの人が気づいてくれるかは解らないんですけど、僕が聴く側の人間だとするとそういう発見が嬉しいんですよね。これからもそういう仕掛けはニマニマしながらどどんと仕込んでいきたい(笑)<西村>。

「今まで『シュノーケルって眼鏡かけた弱え〜ヤツラだろ?』って思っていた人が聴くと、そういうイメージを越えたインパクトがあるアルバムになったと思います<山田>。

「そう、眼鏡っ子の逆襲だね! あとよく『香葉村さんはダテ眼鏡なんですよ?』っていわれるので、ここできっちり否定しておきます(笑)<香葉村>。